

# ふれあい

2017  
7月・夏号

Vol.28

人と心に響き合う

清恵会グループ広報誌

FREE

ご自由にお持ちください

Human♥Communication



特集

子育てママの  
笑顔のために



健康と美容のワンポイント! アドバイス

「子宮が下がってきたのかしら」  
— 子宮脱とは —

 社会医療法人 清恵会

特集 子育てママの笑顔のために

一昔前までは、どこの地域にも子どもがたくさんいて、家庭にはおじいちゃんとおばあちゃん同居し、世代を超えた交流や近所づきあいが当たり前でした。誰しも顔を見ればあいさつを交わし、大人がよその子どもでも叱るときは叱り、地域ぐるみで子どもたちを見守り育むような風潮がありました。それは、いわば自然発生的な地域ネットワークです。ところが現代は少子化、主流は核家族。人間関係も希薄になりがちで、ともすれば子育て世帯さえ孤立してしまします。かかりつけ医を持たない家庭も珍しくありません。何かあったときに相談したり頼ったりする人がいない。何かあっても誰も気づかない。それは、とても心細い社会です。子どもを取り巻く環境にもさまざまな不安要素があり、今、一人の子どもを産み育てることは、医療の進歩とは裏腹に、以前よりも大変なことかもしれません。これからの時代、医療機関もネットワークをより強固にして子育てをサポートする必要があります。

清恵会が提唱する「子育て支援地域ネットワーク」は、右の図が示す通り、地域の医療機関および行政と連携し、子育てママを長期にわたってサポートするネットワークです。

産婦人科、小児科、救急医療センターをはじめ、子どもの学習障害を支援する「堺清恵会LDセンター」や堺市の委託事業である「清恵会病児保育室めぐみ」を併設する清恵会病院だからこそ可能な取り組みといえます。

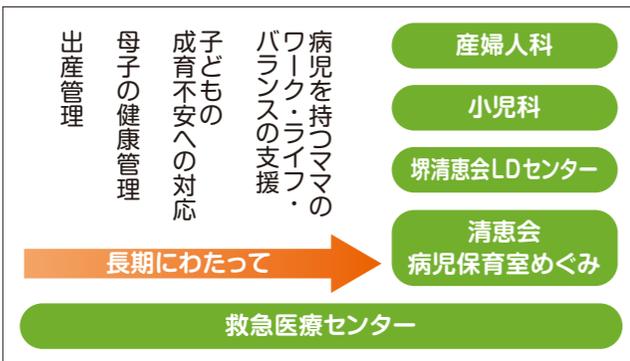
「子育て支援地域ネットワーク」とは



清恵会病児保育室めぐみ



小児病棟のプレイルーム



清恵会病院は医療の面からママとお子様をサポート

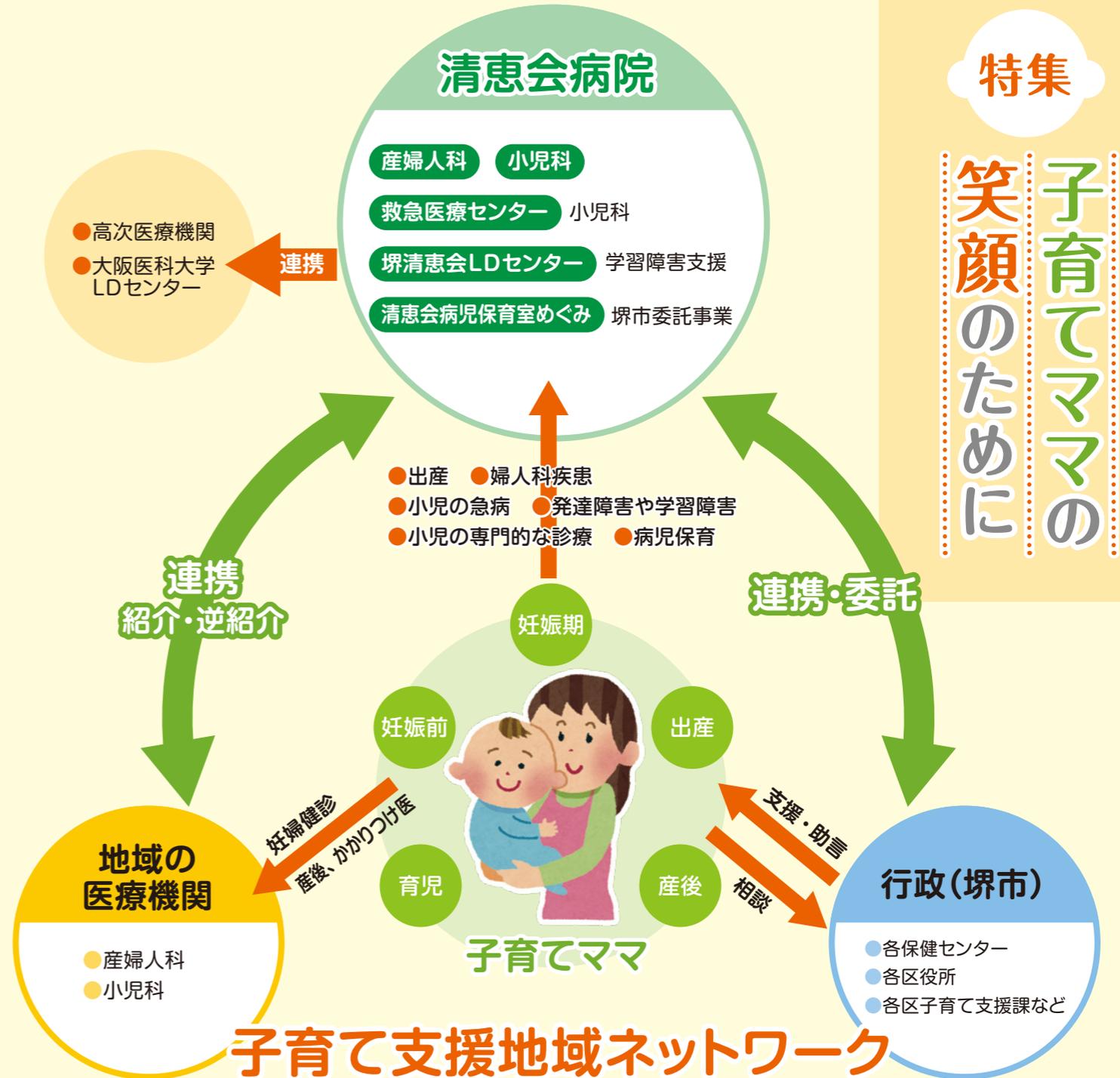


ママとベビーが健やかな毎日を送るためには、妊娠期はもちろん出産後も母子の健康管理が不可欠です。また、小さな子どもは体調面などにさまざまな変化が起こりがちです。「子育て支援地域ネットワーク」は、妊娠期から子育て期に至る長期間、切れ目のない医療で母子の健康を総合的にサポートします。

妊娠期から子育て期まで、母子をトータルサポート

特集

子育てママの笑顔のために



# 子育てママに優しい病院

## 各診療科の特色

さまざまな状況に対応するチーム体制と充実の設備

### 産婦人科

産婦人科は、妊娠や出産を管理する産科と、それに関連する臓器である卵巣や子宮、女性ホルモンなどの不具合をケアする婦人科との総称です。清恵会病院産婦人科では、思春期から出産年齢の時期、さらには更年期や老年期に至るまで、女性の全生涯にわたる健康管理に力を注いでいます。

現代医学をもってしても、排卵から受精、妊娠、出産にいたる女性のダイナミックな生命の営みは神祕の領域です。が、近年、母体内での10カ月間の環境が出生児の数十年後の健康状態や身体機能を左右するということがわかってきました。そういった最近の医学的知見に基づき、当院では内科や外科なども含めた全科的な視点から、生まれてくる子の将来の健康までを見据えた妊娠・出産管理を目指しています。

可能な限り自然な陣痛による出産を基本とする一方、妊娠や分娩の異常は早期に察知し、積極的に医療介入します。未熟児出産が予想される場合には高次医療機関に搬送する体制を整えています。

出産に備えての入院は女性専



LDR室にて産婦人科医師と助産師のスタッフ

用病棟です。個室と2人部屋とがあり、どちらも母子同室で過ごしていただけます。また、広いLDR室も設置しています。LDRとは、陣痛(Labor)、出産(Delivery)、回復(Recovery)という意味で、陣痛の始まりから出産、回復期までをご家族がリビングルームにいる雰囲気です。新しい命の誕生を祝っていただけます。緊急時には治療室として機能する設備も備えています。

出産をサポートするのは設備機器だけではありません。一人の女性が産む子どもの数が少なくなっている今だからこそ、妊婦さんやご家族の希望にできる限り沿いたいと当院は考えています。そのため、「こんな風に産みたい」「母乳だけで育てたい」といった出産・育児に関する希望を伺いながら「ベースプラン」を立て、その実現



女性専用病棟の2人部屋

に向けてスタッフ全員でサポートします。さらには、妊娠・出産・育児についての「両親学級」も実施しています。

新生児に対しては、小児科と連携してケアを行っています。当院では各診療科を横断したチーム医療体制を確立しており、安心して出産していただける環境を整えています。

婦人科は、子宮筋腫や卵巣腫瘍の手術、初期がんの検査や手術、また高齢の婦人の子宮脱の治療など、あらゆる不具合に対応いたします。月経異常や更年期障害などについては、ご希望も考慮した上で、西洋医学のみならず漢方医学的なアプローチも行います。そのほか思春期の異常、不妊症、婦人科感染症、避妊、がん検診など、女性の全年齢にわたる心身の不調を診療します。

救急医療から専門診療まで幅広く対応

### 小児科

清恵会病院の小児科は、救急を中心に小児科系の疾患全般を診療しています。感染症、ぜんそく、けいれんなどの急性疾患はもとより、発達障害、神経疾患、心疾患、腎疾患、アレルギー、夜尿症、低身長などの専門的な診療も幅広く行っています。

子どもの病気やけがは本当に突然です。当院では平日夜間と土曜日・日曜日、救急外来で小児科医が診療に当たっています。また、救急搬送や緊急入院の受け入れなど、小児救急に万全の体制を敷いています。

もちろん救急だけではなく、日頃から地域の診療所やクリニックとの病診連携、あるいは病院同士の病病連携、医師会や保健センターなどの行政機関とも情報交換を図りながら、小児疾患を地域ネットワークで完結することを目



標として日々、堺市の子どもたちの診療にあたっています。働くママが増えている現代。

困ったときに頼れる小児科であるために、病院内外の環境をより充実させていきたいと当院は考えています。

### 専門診療

#### 神経外来

てんかん、その他の神経性疾患、チックなどについて、脳波・画像検査等による診断と治療を行います。

#### 発達外来

主に発達障害について、発達検査や問診・面談等による診断および治療、指導やカウンセリングなども行います。

#### アレルギー外来

ぜんそくの長期管理、アトピー性皮膚炎の治療、食物アレルギーの診断と食事指導、食物負荷試験などを行います。

#### 循環器外来(心臓超音波検査)

心疾患、不整脈、川崎病後の経過などに対応します。

#### 内分泌外来

夜尿症、低身長などの内分泌疾患について、検査・診断・治療を行います。

#### 乳児健診

1カ月健診・後期健診のほか、発育についての相談などにも対応します。

#### ワクチン外来

予約制でワクチンを接種します。

子どもの学習障害を支援する堺清恵会LDRセンター

LDRとは、学習障害のことで、計算など、ある特定の分野の学習に困難が生じるもので、発達障害の一種です。知的障害とは異なり、普段の生活には困らないという場合も多いため、LDRに対する社会の認知度や理解度は、まだまだ低いのが現状です。

LDRは、きちんと診断し、周囲の人間が正しく理解した上で接しないと、逆に学習困難が進行したり、学習意欲が低下したり、自信そのものを失ってしまう場合もあるため、注意が必要です。

清恵会病院では、小児科と連携した「堺清恵会LDRセンター」を設置し、主に小学1年生から6年生を対象として、専門医による診断・指導を行っています。日本でいち早くLDRセンターを開設した大阪医科大学との連携も緊密で、LDRに関する研究や教材の作成にも協力しています。

お子様それぞれに得手・不得手があります。得意な分野が必ずあります。それを見つけて伸ばしてあげることで、苦手な分野を補うという前向きな姿勢が大切。そのためは、まず正しく知るこ

## 特集 子育てママの笑顔のために

## 小児科救急にも対応する 救急医療センター

1970年の開業以来、救急医療を中心に発展してきた清恵会病院は救急告示病院であり、二次救急受入医療機関（入院を要する救急医療を担う医療機関）として、現在も年間約6000件の救急搬送と年間約3000人の救急入院を受け入れています。

これらの患者様に対して、救急医療センターの担当医が各診療科の専門医と強力な連携体制をとる、適切な診療を迅速に行っているのが当院の強みです。長年の救急医療の経験に培われた高度なノウハウが私たちにあります。

救急医療センターが対応する診療科としては内科、外科、脳神経外科、整形外科、そして小児科です。堺市こども急病診療センターの二次後送にも積極的に協力し、地域の小児救急医療に尽力しています。

## 特集 子育てママの笑顔のために

### 小児科 救急搬送で来院した患児の疾患

(上位8位までを抜粋)

診断名	件数
1 熱性痙攣	98
2 咽頭炎、喉頭炎、扁桃炎	33
3 感染性胃腸炎（疑い含む）	32
4 急性気管支炎	19
5 異物誤飲	15
6 頭部打撲	12
7 痙攣重積発作、インフルエンザ、アレルギー	各10
8 てんかん、上気道炎、嘔吐、便秘	各9

清恵会病院 2016年度 総数331件

## 病気・けがのときの一時保育 清恵会病児保育室めぐみ

「清恵会病児保育室めぐみ」は、堺市の委託を受けて当院に設置された一時保育施設です。

お子様が病気やけがで保育所などへ通えず、かつ、保護者の方が仕事の都合などで家庭での保育が困難な場合、当施設が一時的に保育を行い、子育てと就労の両立を支援します。

ご利用の際には事前登録が必要です。詳しくは当院のホームページをご覧ください。お電話でも尋ねてください。

社会医療法人清恵会 人事総務グループ

☎072-223-8199

(平日10:00~17:00※土曜は14:00まで)

清恵会病児保育室めぐみ  
事前登録

- 対象者 / 生後6カ月から小学校6年生まで
- 対象疾患 / 通常の外来で治療可能な病気\*や骨折などの外傷性疾患  
※感冒、消化不良症(多症候性下痢)、風疹などの感染性疾患や喘息などの慢性疾患  
【ご注意】空気感染する水ぼうそうや麻疹は対象外となります
- 利用期間 / 1回につき連続7日間を限度
- 定員 / 6名
- 保育時間 / 月曜~金曜 8:30~18:30
- 休室日 / 土曜・日曜・祝日・年末年始(12月29日~1月3日)
- 利用料 / 堺市民:1人1日2,500円(所得により減免あり)  
堺市民以外:1人1日4,500円

# 医心 伝心

医の最前線から  
第二十八回



## 平田 繁

リハビリテーション科部長  
兼 リハビリテーションセンター長

1986年、鳥取大学医学部専門課程卒業、大阪市立大学整形外科教室入局、大阪市立城北市民病院(現大阪市立総合医療センター)にて研修。1988年、大阪港湾病院整形外科。1992年、大阪市更生療育センター。1997年、育和会記念病院整形外科副部長。1998年、関西労災病院リハビリテーション科医長、大阪市立大学整形外科助手。1999年、大阪市立総合医療センターリハビリテーション科医長、2002年、同科副部長。2004年、大阪市立弘済院附属病院リハビリテーション科副部長、整形外科副部長兼大阪市立十三市民病院リハビリテーション科副部長。2007年、大阪市立心身障がい者リハビリテーションセンター医務主幹を経て2016年から現職。

日本整形外科学会整形外科専門医、日本リハビリテーション医学会リハビリテーション科専門医・指導医

## 治りたいという気持ちを支えるチーム医療

### リハビリテーション医療が 専門です

リハビリテーション科の役割は、病院の治療と患者様の生活とをつなぐことと考えています。患者様は、病気やけがのために中断してしまった家庭生活や社会的生活を取り戻すために、まず治療や手術をします。リハビリはその後、損なわれた機能の回復を図るとともに、その人らしい生活を取り戻すために、現状の能力でできることを見極めて、病気やけがをした自分自身と折り合いをつけるための支援も行います。

機能回復のための訓練そのものは、リハビリ専門職である理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が担当しますが、医師である私は訓練の前後に診察し、訓練が可能か病状かどうかと、患者様が訓練の成果を実感できているかどうかを把握します。

### 清恵会病院 リハビリテーション科の特色

当院は、骨折や労働災害、脳卒中などの二次救急の患者様を積極的に受け入れており、また、同一法人内の専門学校で理学療法士を養成していることもあって、救急からリハビリテーションまで、しっかりと見通せる医療を提供できていると自負しています。今後は、小児疾患や糖尿病、がんなどのリハビリも行っていきたいと考えています。

当たり前に営んでいた生活が病気やけがで困難になったとき、リハビリテーションスタッフは、患者様をチームで支えます。患者様の「治りたい」という気持ちに沿ったリハビリテーションの目標をしっかりと見据えながら、日々訓練に取り組み努力をチームでしっかりと支援します。

### 休日はゴルフ場にあります

趣味と健康づくりを兼ねて、休日はゴルフのコースか練習場に出かけます。60歳を過ぎても飛距離を維持するために、加圧トレーニングも続けています。加圧トレーニングのトレーナーとは3年以上のつきあいになりますが、彼とのやりとりは、トレーニングを受ける側の気持ちを理解することにも役立っています。



リハビリテーション風景

# クローズアップ!

清恵会の仕事見せます



清恵会病院 薬剤科  
 薬剤師 山本 亜依(左) 4A病棟  
 薬剤師 秋山 夏代(右) 4B病棟

## vol.15 病棟で活躍する薬剤師

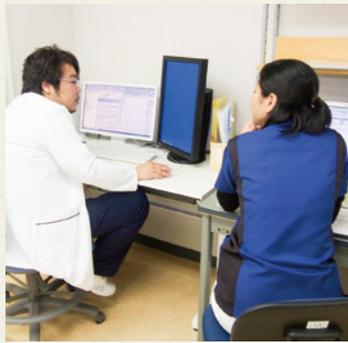
### 1 家から持参された薬の確認

入院初日に、患者様が家で服用していた薬を確認します。患者様の「お薬手帳」は貴重な情報源です。副作用が出ていないかを確認し、医師に報告します。



### 2 医師、看護師との情報共有

カルテの情報や患者様とお話した内容から、薬の効果がきちんと表れているか、副作用が出ていないかを確認します。必要があれば、治療の効果を高めたり副作用を避けるために薬の増量や減量、変更を提案します。また、その情報を看護師と共有し、より安全に、効果的な治療ができるよう協力しています。



### 3 常備している点滴や薬の管理

病棟に常備している薬の在庫や期限の確認を行っています。



### 4 多職種との協力

脳神経外科病棟では週に1回、多職種によるカンファレンスを行っています。患者様が家に戻ってからでも安心して生活できるよう、医師、看護師、薬剤師、理学療法士、言語聴覚士、作業療法士、医療ソーシャルワーカーが集まり、退院や転院に向けての治療などについて相談します。



# ナース・フェイス Nurse Face

私の看護、私の思い

## 透析看護師としての関わり

私は、清恵会向陵クリニックで透析室の看護師として勤務しています。当院は外来透析専門のクリニックで、腎臓の機能が低下した患者様が通院し、血液透析療法を行っています。患者様は、食事や水分など日常生活での制限もあり、身体的、精神的な苦痛を伴うことが多いのです。その苦痛を少しでも軽減し、良い状態で治療が受けられるよう、医師、看護師、臨床工学技士、看護助手など他職種と連携しながら一人一人にあった透析を行えるように日々努力しています。



宮迫 由真  
 清恵会向陵クリニック 看護師

透析室で勤務を始めた頃は、機械操作や太い針を刺すことにも慣れていませんでした。そんな私に「宮迫さんに刺してもらおう」といって待つてくださる方や、娘や孫のように私のことを気にかけてくださる方もいて、患者様に育ててもらい、成長できたと思います。また、人生の先輩として今でも教わることはたくさんあります。

透析看護師は、機械を操作するだけではありません。安全に透析療法を行うことはもちろんですが、長い期間、患者様と関わる場所だからこそ、信頼関係を大切にしています。家での出来事や家族の話など、何気ない会話をすることも重要だと私は感じています。その会話の中から情報を得て生活指導につなげることもできますし、患者様自身が話をすることで、少しでも気分転換になればと思います。腎臓疾患には合併症もあり、身体の変化や心の悩みなど、小さな異変にも気づくことができるよう幅広い知識も必要なので日々勉強中です。

透析をしているからすべて我慢をするのではなく、透析をしてもできることを患者様と一緒に考え、前向きに治療し、より良い毎日が送れるように看護していきたいと思えます。

# 地域医療ネットワーク

清恵会病院と共に地域の医療を支え合う  
 医院・クリニックをご紹介します。  
 あわせて新しいセンターもご紹介。



## 清恵会病院に、「入退院支援センター」を含む「総合支援センター」を設けました

平成29年4月、清恵会病院では、医療福祉相談室・患者支援室・地域連携室に、「入退院支援センター」を合わせた「総合支援センター」を開設しました。

患者様にとって、入院・退院に関するわかりやすい相談体制を敷くとともに、地域の医療機関や施設との連携充実を図るため、地域連携に関する業務も同センター内で行い、情報を共有しています。

「入退院支援センター」は、看護師、医療ソーシャルワーカー、事務職員のメンバーで構成しています。予約入院や救急での入院患者様に対して、お一人お一人の状況を把握し、入院前・入院・退院後も含めた多職種の連携による支援で、早期の在宅療養やスムーズな転院に繋がります。患者様の背景の把握や書類作成、電子カルテへの記録などは一元的に管理しています。

### 入院支援業務

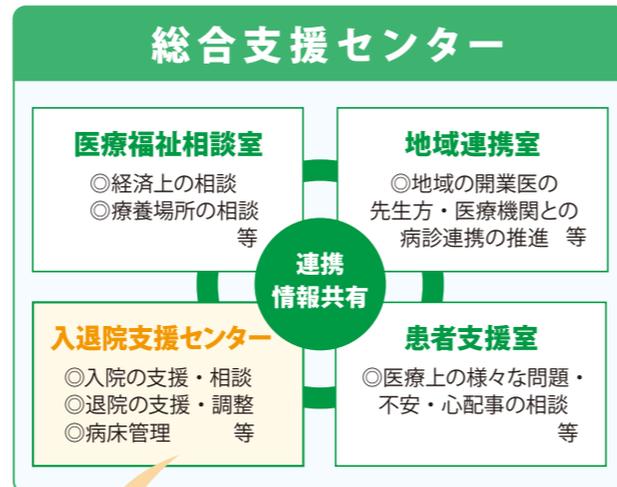
- 入院手続き上の支援(費用説明や入院前オリエンテーション)
- 入院までのご相談の対応・支援・指導
- 患者様に関する情報の電子カルテへの記録

### 退院支援業務

- 退院に関する調整・指導
- 訪問看護・往診医の調整
- 転院先病院や施設との連携
- ケアマネージャーとの連携など

### 病床管理業務

- 入退院調整
- 緊急入院の病床確保
- 病棟間の転棟調整



入退院支援センターのスタッフ

**入院から退院まで  
一貫したサポートをしております。**

## 地域に根ざし、信頼される小児科をめざして さい小児科

堺市堺区戎島町2-70-1 M・Y2堺駅前ビル2階

☎072-275-6631

- 診療科目/小児科(小児一般、予防接種、健診)
- 診療時間/9:00~12:30(土曜は13:00まで)、15:00~16:00(火曜・木曜/要予約/予防接種・健診のみ)、16:30~18:30(土曜は午前のみ)  
 ※予防接種・健診は全ての時間帯で行っています(要予約)
- 休診日/土曜の午後、日曜、祝日
- 開院年/2014年4月 ●ホームページ/http://www.sai-kodomo.com



▲クリニックは堺駅前のファミリーマートの上です。

### 小児科を志した理由

大学に入学した当初は、どの科に進むか決めていませんでした。子どもと接する機会もあまりなかったのですが、姉に女の子が産まれ、一緒に遊んだら、とてもかわいかったので小児科を選びました。大学を卒業して、東京や大阪、泉大津、堺などの病院に勤務しましたが、泉州の人たちの優しさに触れ、この地で開業することにしました。

### 診療や設備の特色

小児疾患全般を幅広く診療しています。食物アレルギーやアトピー性皮膚炎、気管支ぜんそくなどのアレルギー疾患も診ています。血液検査のほか、食事やスキンケアの指導なども行っています。食事療法の基本は「食べることを目指した必要最小限の食品除去です。臍ヘルニアの内科的治療も行っています。臍ヘルニアとは、いわゆる「でべそ」のことで、かぶれの少ないテープを使った綿球圧迫法を行っています。鼻汁吸引も刺激の少ない柔らかな吸引器具で行っています。設備機器の特徴としては、診察室以外に3つの別診を設けています。感染症の予防と拡大防止にも努めています。血球計数迅速測定機、CRP迅速測定器、感染症

### 清恵会病院とのかわり

清恵会病院は当院から近く、信頼の置ける医療機関です。夜間の入院にも対応して頂きとても感謝しています。今後とも連携を密にし、地域医療に貢献していきたいと思っています。



▲院長の崔 信明(さいのぶあき)先生とスタッフのみなさん

## 新入生歓迎会!

清恵会医療専門学院  
第1看護学科



### 3年後、看護師になる40名です

第1看護学科41期生が入学しました。社会人8名、男子学生6名を含む40名が新しく仲間に加わり、学院は活気づいています。

4月22日(土)には、2年生が中心となって新入生歓迎会を開催しました。

1年生は、初めは緊張しながらも途中からは本領発揮!先輩たちに負けない元気さで、積極的に参加していました。3年生は実習の合間の良い息抜きができた様子。早くもみんなが一つになり、先輩後輩の垣根を越えて楽しんでいました。



### 卒業後も続く学院のつながり

清恵会医療専門学院では、学生同士が互いに学びあう場や交流の機会が数多くあります。

新入生歓迎会をはじめ、秋には合同の野外活動があります。実習前には、先輩が後輩にアドバイスする姿がよく見られます。また、国家試験を受ける3年生へ、1・2年生が応援メッセージを送ったり、卒業生から激励の差し入れがあったりもします。そして、清恵会病院や清恵会三宝病院には学院の先輩たちがいるため、卒業して働きはじめるときも心強く、ここでも先輩後輩が刺激しあい、互いに成長していく姿があります。

このように清恵会グループでは、切れ目のないつながりを大切にしています。

### 新入生歓迎会での1年生の声

楽しかった!

学院は、先輩後輩のつながりが強いと感じました。



先輩たちに学校生活のことを聞いて、これからのことがイメージできました。

1年しか変わらないのに、先輩はすごいなあと思った!

## えんげしやうがい 嚥下障害について

### 嚥下障害が疑われる症状と対策

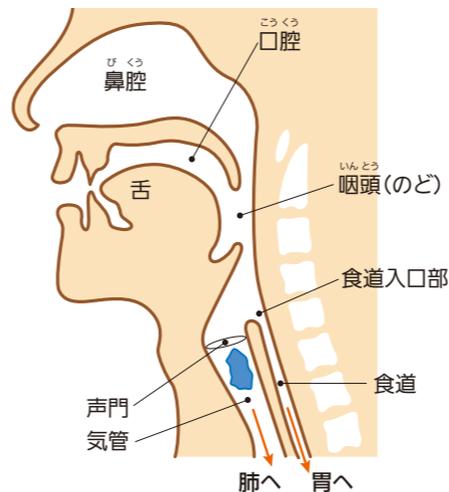
#### 症状

- ① 食べ物、飲み物が飲み込みにくい感じがする
- ② 口の中に食べ物が残る
- ③ 喉に痰が絡んだ感じや、食べ物が残る感じがする
- ④ 食事中や飲み物を飲むときにむせる
- ⑤ 何度も肺炎を繰り返す
- ⑥ 最近、明らかに痩せた

#### 対策

- ①②は**口腔ケア**をしっかりと。
- ③④は料理を工夫し、**食べるときは食事に集中**するようにします。
- ⑤⑥は何か違う重大な疾患があるかもしれないため、**医師の診察**を勧めます。

### 口やのどの構造と誤嚥の状態



嚥下(えんげ)という言葉をご存知でしょうか?嚥下とは、口から飲食物を取り込み、咀嚼(そしゃく)し、舌で喉(のど)に移動させ、さらに食道へ送り込むまでの連続した複雑な動作のことです。病気や加齢によって、この流れのどこかに異常が起こることを嚥下障害といいます。嚥下障害になると、脱水や栄養失調、窒息事故、誤嚥(ごえん)性肺炎などを招く恐れがあります。

誤嚥とは、飲食物や唾液などが気管や肺に入ることを行います。嚥下(えんげ)という言葉をご存知でしょうか?嚥下とは、口から飲食物を取り込み、咀嚼(そしゃく)し、舌で喉(のど)に移動させ、さらに食道へ送り込むまでの連続した複雑な動作のことです。病気や加齢によって、この流れのどこかに異常が起こることを嚥下障害といいます。嚥下障害になると、脱水や栄養失調、窒息事故、誤嚥(ごえん)性肺炎などを招く恐れがあります。

嚥下障害になっても、安全に栄養を摂取することが大切です。清恵会三宝病院では、このような嚥下障害の患者さんに対し、言語聴覚士がどのような状態で食べられないのかを調べ、適切な方法で栄養をとっていただくための訓練などを行います。そして、理学療法士・作業療法士とともに、しっかりと栄養をとりながら元の生活を取り戻すためのリハビリテーションを実践します。

清恵会三宝病院  
言語療法科 科長  
濱田 ゆかり



Happy Birthday



6月27日、一昨年に産科を再開して初めて双子の赤ちゃんが生まれました。

アドバンス助産師 女性専用病棟 看護師長 濱寄 久仁子

「今後も、この病院で産んで良かったと思っていただけのように、そして誕生の喜びを、ご家族皆さままで分かち合っていただけよう活動してまいります。」



「アドバンス助産師」とは、助産実践能力が一定水準に達しており、「自律して助産ケアを提供できる助産師」であると認められた助産師のことです。客観的に助産実践能力を評価する仕組み「助産実践能力習熟度段階（クリニカルリーダー／CLOCMP）」のレベルⅢを認証された助産師がこのように呼ばれます。（認定は、一般財団法人日本助産評価機構）  
能力と経験のあるアドバンス助産師がいることは、妊婦さん・赤ちゃん・ご家族への質の高い助産ケアの提供につながり、いっそう安心して当院をご利用いただけます。

Topics  
清恵会病院には「アドバンス助産師」がいます



※オープンキャンパスの他に学校見学会も実施しています。詳細はホームページをご確認ください。（看護学科のオープンキャンパスは定員に達したため、見学会をご検討ください。）

両学院の特徴は、少人数の定員だからできるきめ細やかな指導、病院との連携による実習重視の教育、高い国家試験合格率。在校生には元社会人も在籍。先輩や教員へ相談しやすい環境も魅力です。  
医療の世界を目指す、志ある学生さんの受験、入学を待っています。

Topics  
来たれ！ともに医療人を目指そう！

オープンキャンパスの季節です。清恵会医療専門学院、清恵会第二医療専門学院では、在校生がプロデュースする平成29年度オープンキャンパスを開催中です。看護師、准看護師、理学療法士、診療放射線技師を目指す学生生活がどのようなものか、見学や体験、在校生とのグループトークでイメージしてもらえよう工夫しています。

## 健康と美容のワンポイント！アドバイス



～その16～

## 「子宮が下がってきたのかしら」 — 子宮脱とは —

「股にピンポン玉みたいなのが触れます」といって

婦人科を訪れる女性が増えています。

「股に何か挟まっている感じ」

「お風呂で陰部に手をやると何かに触れる」

「歩きにくい、尿も出にくい」

でも、人に相談しにくい、知られたくない…。どうしよう…。

ひょっとすると子宮が下がってきているのかもしれませんが。

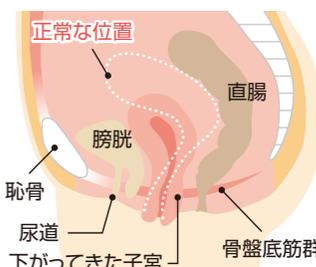
婦人科を受診すれば、子宮脱かどうかはすぐにわかります

まだ病状が進んでいなければ、骨盤底筋を鍛えるトレーニングで

治ることもあります。

### 子宮脱とその原因

出産や加齢とともに骨盤の靭帯が弱くなり、子宮が膣の中で下がってきます。床が弱くなり、タンスが沈んでくると似ています。尿が出にくいのは、尿道や膀胱が子宮に押されるから。下垂はゆっくりと進行し、子宮が膣から外へ飛び出てしまうこともあります。これが子宮脱です。



子宮脱の状態

### 治療方法

壊れた床をなおすには、補強の支柱を追加するか、タンスを取り除いて床を平らにしますね。子宮脱もこれと同じです。

### リングの挿入

下がりを防ぐため、円形のリングを膣の中に入れます。異物を入れるので3カ月おき程度の定期的な検診が必要です。検診はずっと続くので、元気なうちはいいのですが、少し大変です。

### 子宮を取り除く手術

子宮を取り除く場合は膣の中から手術します。おなかに傷はつきません。併せて、変形した膣と外陰の形を修復します。

治療が終われば 歩きやすくなり、運動もできます。尿の出が良くなります。子宮を取る治療なら、子宮がんの心配もなくなります。



経産婦の方で60代・70代の方に多くみられます。恥ずかしさから我慢しがちですが、勇気をもって受診してください。治療で快適さを取り戻しましょう。

清恵会病院 産婦人科 医師 松本 公一

## 清恵会グループのご紹介

### 清恵会病院

急性期機能病院

〒590-0064 堺市堺区南安井町1丁目1番1号

### 法人本部

☎ 072-223-8199(代)

### 清恵会訪問看護ステーション

訪問看護・  
訪問リハビリテーション

〒590-0065 堺市堺区永代町2丁目3番9号

☎ 072-232-6074

### 清恵会向陵クリニック

人工透析外来

〒590-0024 堺市堺区向陵中町6丁目2番11号

☎ 072-257-3131

### 清恵会三宝病院

複合型慢性期機能病院

〒590-0903 堺市堺区松屋町1丁目4番地の1

☎ 072-226-8131(代)

### さんさんデイケア三宝

通所リハビリテーション

〒590-0903 堺市堺区松屋町1丁目4番地の1

### きらきら訪問リハ三宝

訪問リハビリテーション

清恵会三宝病院 介護事業部

☎ 072-225-0066

### 清恵会医療専門学院

看護師・准看護師養成校

〒591-8031 堺市北区百舌鳥梅北町2丁目83番地

☎ 072-259-3901

### 清恵会第二医療専門学院

理学療法士・  
診療放射線技師養成校

〒590-0026 堺市堺区向陵西町4丁目5番9号

☎ 072-222-6226

清恵会グループの  
WEBサイトもご覧ください



<http://seikeikai.or.jp/>

清恵会

検索

## 患者様送迎 3ルートで運行中

清恵会病院および清恵会三宝病院へご来院・ご入院される患者様やご家族のために、3つのルートでバスを運行しております。ぜひご利用ください。

(時刻表は各病院またはホームページ等でご確認ください。)

※ご注意 車両がリフト付きではないこと、および走行中の安全確保が行えないため、車椅子でのご利用はご遠慮いただいております。ご了承の程お願い申し上げます。

